

4月 図書館だより

令和3年4月
栃木南中学校

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新2・3年生のみなさん進級おめでとうございます。
今年も南中図書室は、みなさんにとって楽しい本や感動する本・役に立つ本と出会うためのお手伝いをしていきますので、どんどん図書室を活用してください。



南中の読書運動



①朝の読書タイム

栃木南中では、8時15分から8時25分の間、朝の活動の時間で朝読などを行っています。
朝読は10分という短い時間ですが、続けることで読書の習慣が身に付きます。朝読で穏やかに一日をスタートさせましょう。自分で用意した本でも、学級文庫または図書室で借りた本でも大丈夫です。

②毎月1冊本を読んでみませんか(1ヵ月に1人が1冊本を読もう)

気になる本はありますか。たくさんでなくても、毎月1冊以上本を読んでみましょう。
1冊でも「大好き」になれる本と出会えるように図書館だより等で本を紹介していきます。

③読書週間

今年度は11/1~12日に実施予定です。読書週間にさきがけて、みなさんに作成していただいた標語の優秀作品や読書感想文の優秀作品の発表、先生方による本の紹介、4月から11/12までの各学年の多読者の発表などがあります。

④年間多読賞

年度末に年間多読賞者(50冊以上読んだ人)を表彰します。



お知らせ

- 📖 図書の貸出しは 4/12(月)からです。
- 📖 1年生は図書館オリエンテーション後から、貸出しを始めます。
- 📖 貸出日は学年毎になっていますので、図書館から発行されるカレンダー(予定表)を見てください。
- 📖 今年度は、本を借りるときに本専用の袋かバッグを用意してもらえると助かります。





図書館利用の決まり



- (1) 貸出日・時間 月曜日～金曜日 昼休み（今年度はしばらく学年ごとに利用日を設定します）
- (2) 貸出し冊数 1人3冊まで
- (3) 貸出し期間 8日以内
- (4) 貸出しのきまり

＜本の借り方＞ 「借ります。」と声をかけて、年・組・出席番号・名前を言って自分のバーコードを指し、借りる本のバーコードが見えるように係の人に^{いらい}出し、貸出し手続きを依頼する。



＜本の返し方＞ 返す本のバーコードが見えるように係に出し、「返します。お願いします。」と声をかけて返却手続きを^{いらい}依頼する。



手続き後、係が本を預かります。
図書館が開いていないときは、図書室前廊下にある返却ボックスに入れる。

(5) 図書館での約束

- ① 入室の前、退室の後は**必ず手を洗う**。入室に際しては、上履きを脱いで図書室前に並べておく。入退室時にはあいさつをする。「こんにちは」、「失礼します」、「失礼しました」
- ② 図書館内では静かにする。話すときは、小さな声で。
- ③ 本は大切に扱う。
- ④ 借りた本は、期限内に返却する。学年の開館時は、カウンターで返却手続きをし、該当学年でないときや閉館時は、図書室前の返却ボックスに入れる。
- ⑤ 図書室内で読むときは、椅子に座って読む。席を離れる・退室する際は使った椅子は元に戻す。
- ⑥ 借りずに読んだ本は元の場所に戻す。
- ⑦ 貸出しの手続きをしていない本は、図書室から持ち出さない。

本の予約について

借りたい本が貸出し中のときは、予約ができますので予約表に【氏名・クラス・書名】を書いて係に渡すか、図書室前の伝票差しに差してください。本が戻ってきたら連絡をします。

購入希望リクエストについて

図書室で購入してほしい本がある人は、リクエスト用紙に【氏名・クラス・書名・作者名など】を記入して係に渡すか、図書室前の伝票差しに差してください。すべてのリクエストに^{こた}応えられるわけではありませんのでご^{りょうしょう}了承ください。

昨年度人気の本

昨年度、多くの方が借りて読んだ本を紹介します。
まだ読んでいない人は、ぜひ読んでみてください。

汐見夏衛 著



夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く



まだ見ぬ春も、君のとなりで笑っていたい



だから私は、明日のきみを描く



ないものねだりの君に光の花束を



明日の世界が君に優しくありますように

栃木県出身

梨屋アリエ 著



きみの存在を意識する

吾峠呼世晴 著



鬼滅の刃 風の道しるべ



鬼滅の刃 片羽の蝶



鬼滅の刃 しあわせの花



劇場版 鬼滅の刃 無限列車編



ポケモン空想科学読本

本山 理咲 著



いじめ 心の中がのぞけたら—漫画 明日がくる

長沼 睦雄 著



10代のための
疲れた心がラクになる本:
「敏感すぎる」
「傷つきやすい」
自分を好きになる方法

大今 良時 著



小説 聲の形



サバイバルシリーズ



麻希 一樹 著



「悩み部」の平和と、その限界。



「悩み部」の焦燥と、その暗躍。

